

平成30年2月14日

お客様各位

日本化薬株式会社  
アグロ事業部

## 「クロピクフロー」登録内容変更のお知らせ

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたびご愛顧いただいております土壌くん蒸剤「クロピクフロー」

(登録番号21220号)が、平成30年2月14日付で登録内容変更となりましたので

お知らせいたします。

引き続き「クロピクフロー」をよろしくお願い致します。

敬具

記

登録番号	農薬名(商品名)	農薬の種類名	製造者名
第21220号	クロピクフロー	クオルピクリンくん蒸剤	日本化薬株式会社

### ■変更内容

1. 下記のとおり「適用病害虫の範囲及び使用方法」の登録内容が変更になりました。

(別紙1参照)

①作物名「かぶ」、適用病害虫名「萎黄病」及び「ネコブセンチュウ」を追加する。

②作物名「パセリ」、適用病害虫名「立枯病」及び「ネコブセンチュウ」を追加する。

③作物名「トマト、ミニトマト、いちご、ピーマン、とうがらし類、きゅうり、うり類(漬物用、ただし、漬物用メロンを除く)、すいか、さやいんげん、ねぎ、セルリー、花き類・観葉植物」及び「なす、ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ、にがうり、さやえんどう、実えんどう、しょうが、葉しょうが、みょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、こまつな、アスパラガス、にら」の使用目的に「前作のいちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ、すいか、うり類(漬物用、ただし、漬物用メロンを除く)、にがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうが、葉しょうが、みょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物の古株枯死」を追加し、使用時期を「前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ、きゅうり、すいか、うり類(漬物用、ただし、漬物用メロンを除く)、にがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうが、葉しょうが、みょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物の収穫終了後古株撤去前まで」とする。

2. 「使用上の注意事項」について、(5) を以下のとおり変更し、変更後の内容となりました。  
(別紙2参照)

(変更前)

(5) 古株枯死、コナジラミ類の蔓延防止に使用する場合、前作のトマト、ミニトマトまたはきゅうりに処理し、被覆期間については以下を目安とすること。また、ハウス等からクロルピクリンの臭気が漏洩しないように、十分注意すること。

- ① 地温が15℃以上の時は処理後10日位
- ② 地温が低い時は処理後20～30日位

(変更後)

(5) 古株枯死、コナジラミ類の蔓延防止に使用する場合、前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ、きゅうり、すいか、うり類(漬物用、ただし、漬物用メロンを除く)、にがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうが、葉しょうが、みょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物に処理し、被覆期間については以下を目安とすること。また、ハウス等からクロルピクリンの臭気が漏洩しないように、十分注意すること。

- ① 地温が15℃以上の時は処理後10日位
- ② 地温が低い時は処理後20～30日位

■本剤に関する問い合わせ先

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1  
日本化薬㈱ アグロ事業部 営業部 営業企画担当  
電話：03-6731-5321、FAX：050-3730-7867

(変更後)

別紙 1

## 7. 適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	本剤の使用回数	使用方法	カルビクリンを含む農薬の総使用回数																										
かぶ	萎黄病	20～30 ℓ /10a	1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	1回																										
	ネコフセンチュウ	30 ℓ /10a																													
トマト ミニトマト	萎凋病	20～30 ℓ /10a			1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)																								
	ネコフセンチュウ																														
いちご	萎黄病	20 ℓ /10a					1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)																						
	ネコフセンチュウ																														
なす	半枯病	20～30 ℓ /10a							1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	2回以内 (床土1回以内)																				
	青枯病																														
ピーマン とうがらし類	青枯病	20～30 ℓ /10a									1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)																		
	萎凋病																														
ほうれんそう ごぼう いんげんまめ	ネコフセンチュウ	30 ℓ /10a											1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	2回以内 (床土1回以内)																
	萎凋病	20～30 ℓ /10a																													
きゅうり すいか	つる割病	20～30 ℓ /10a													1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)														
	ネコフセンチュウ	30 ℓ /10a																													
うり類(漬物用、 ただし、漬物用 メロンを除く)	つる割病	20～30 ℓ /10a															1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)												
	ネコフセンチュウ	30 ℓ /10a																													
にがうり	つる割病	20～30 ℓ /10a																	1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	2回以内 (床土1回以内)										
	ネコフセンチュウ	30 ℓ /10a																													
さやいんげん	萎凋病	20～30 ℓ /10a																			1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)								
	ネコフセンチュウ	30 ℓ /10a																													
さやえんどう 実えんどう	根腐病	20～30 ℓ /10a																					1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)						
	ネコフセンチュウ	30 ℓ /10a																													
しょうが 葉しょうが みょうが(花穂) みょうが(茎葉)	根茎腐敗病	20～30 ℓ /10a																							1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	2回以内 (床土1回以内)				
	萎黄病																														
こまつな	立枯病	30 ℓ /10a																									1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	2回以内 (床土1回以内)		
アスパラガス	ネコフセンチュウ																														
にら	乾腐病	20～30 ℓ /10a																											1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
ねぎ	萎凋病																														
	根腐萎凋病	30 ℓ /10a	20～30 ℓ /10a	1回																											3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
ネコフセンチュウ																															
パセリ	立枯病	20～30 ℓ /10a	1回		耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	1回																									
	ネコフセンチュウ	30 ℓ /10a																													
セルリー	萎黄病	20～30 ℓ /10a				1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)																							
	ネコフセンチュウ																														
きく	ネコフセンチュウ	30 ℓ /10a						1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)																					
	ネコフセンチュウ																														
花き類・観葉植物 (きくを除く)	萎黄病(フザリウム菌)	30 ℓ /10a								1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)																			
	萎凋病(フザリウム菌)																														
株枯病(フザリウム菌)	30 ℓ /10a	1回										耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)																		
乾腐病(フザリウム菌)																															
球根腐敗病(フザリウム菌)	30 ℓ /10a												1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)																
立枯病(フザリウム菌)																															
葉枯病(フザリウム菌)	30 ℓ /10a														1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)														
腐敗病(フザリウム菌)																															
ネコフセンチュウ	30 ℓ /10a																1回	耕起整地後、 灌水チューブを設置し、 その上から ポリエチレン等で被覆する。 その後、 液肥混合器等を使用し、 本剤を処理用の水に 混入させ処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)												

作物名	使用目的	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロビクリンを含む農薬の総使用回数
トマト ミニトマト いちご ピーマン とうがらし類 きゅうり すいか うり類 (漬物用、ただし、 漬物用メロン を除く) さやいんげん ねぎ セルリー 花き類・観葉植物	前作のトマト、ミニトマト、 いちご、なす、 ピーマン、とうがらし類、 ほうれんそう、 ごぼう、 いんげんまめ、 きゅうり、すいか、 うり類(漬物用、 ただし、漬物用メロン を除く)、にがうり、 さやいんげん、 さやえんどう、 実えんどう、 しょうが、 葉しょうが、 みょうが(花穂)、 みょうが(茎葉)、 こまつな、アスパラガス、 にら、ねぎ、セルリー または 花き類・観葉植物の 古株枯死 コシナギ類蔓延防止	20 ℓ /10a	前作のトマト、ミニトマト、 いちご、なす、 ピーマン、とうがらし類、 ほうれんそう、 ごぼう、 いんげんまめ、 きゅうり、すいか、 うり類(漬物用、 ただし、漬物用メロン を除く)、にがうり、 さやいんげん、 さやえんどう、 実えんどう、 しょうが、 葉しょうが、 みょうが(花穂)、 みょうが(茎葉)、 こまつな、アスパラガス、 にら、ねぎ、セルリー または 花き類・観葉植物の 収穫終了後 古株撤去前まで	1回	灌水チューブを 設置し、 その上から ポリエチレン等で 被覆する。 その後、 液肥混合器等を 使用し、本剤を 処理用の水に 混入させ 処理する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)
なす ほうれんそう ごぼう いんげんまめ にがうり さやえんどう 実えんどう しょうが 葉しょうが みょうが(花穂) みょうが(茎葉) こまつな アスパラガス にら						2回以内 (床土1回以内)

## 8. 使用上の注意事項

- (1) 温度が低いと本剤のガス化が悪く、十分な効果が得られないこともあるので、なるべく地温が7℃以上の時使用すること。
- (2) 本剤の処理に当たっては、作物の播種・植付け前にガスが土壌中に十分拡散するように耕起、砕土を十分に行い、丁寧に整地してから灌水チューブを設置する。その上からポリエチレン等で被覆し、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理すること。
- (3) 本剤の処理液が直接処理圃場より漏出しないように注意すること。
- (4) 高設栽培等架台上の培地に使用する場合、薬剤がベッドの下部等から散逸しないように、ポリエチレン、ビニール等で施設床面まで被覆すること。また、薬剤を処理する際に、ポリエチレン、ビニール等を伝わって、栽培槽から漏出しないように注意すること。
- (5) 古株枯死、コナジラミ類の蔓延防止に使用する場合、前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ、きゅうり、すいか、うり類(漬物用、ただし、漬物用メロンを除く)、にがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうが、葉しょうが、みょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物に処理し、被覆期間については以下を目安とすること。また、ハウス等からクロルピクリンの臭気が漏洩しないように、十分注意すること。
  - ① 地温が15℃以上の時は処理10日位
  - ② 地温が低い時は処理後20～30日位
- (6) 地温が15℃以上の時は処理後10日位、また、地温が低い時は処理後20～30日経過するとガスは大体抜けるが、念のためくわを入れ、土質、気温等により、なお臭気が残っている時は、よく切り返し、完全にガス抜きを行ってから、播種あるいは移植すること。うり類は本剤のガスに弱いので、ガス抜きは特に丁寧に行うよう注意すること。
- (7) 作物の生育中には薬害を生じるので使用しないこと。隣接地に生育中の作物がある場合には、揮散ガスによる薬害に注意すること。特に、生育中の作物があるハウス内では使用しないこと。
- (8) 消石灰などのアルカリ性肥料の施用直後に本剤を処理すると作物に有毒な物質を作り、薬害の発生するおそれがあるので、このような肥料はガス抜き後に施用するか、または本剤処理の10日以上前に施用すること。
- (9) 他剤と混合しないこと。特にカーバム剤およびカーバムナトリウム剤とは化学反応により、発熱し危険であるので、カーバム剤およびカーバムナトリ

ウム剤使用後の散布器具等はよく洗浄してから用いること。

- (10) 金属腐食性があるので、使用後の注入器具その他は水でよく洗うこと。
- (11) 薬液の入っている製品缶に水が混入すると缶が腐食するおそれがあるので、製品缶には水を入れないこと。
- (12) 薬液タンク（ポリタンク等）に移した薬液は水分を含んでいる可能性があり、製品缶を腐食するおそれがあるので、残存薬液は製品缶に戻さず、使い切ること。
- (13) ミツバチの巣箱周辺では使用をさけること。
- (14) 処理後の放置期間と効果・薬害との関係は、土壌の種類、腐植土の多少、温度、土壌水分、作物の種類によって様ではないので、本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意すること。特に、初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (15) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。